

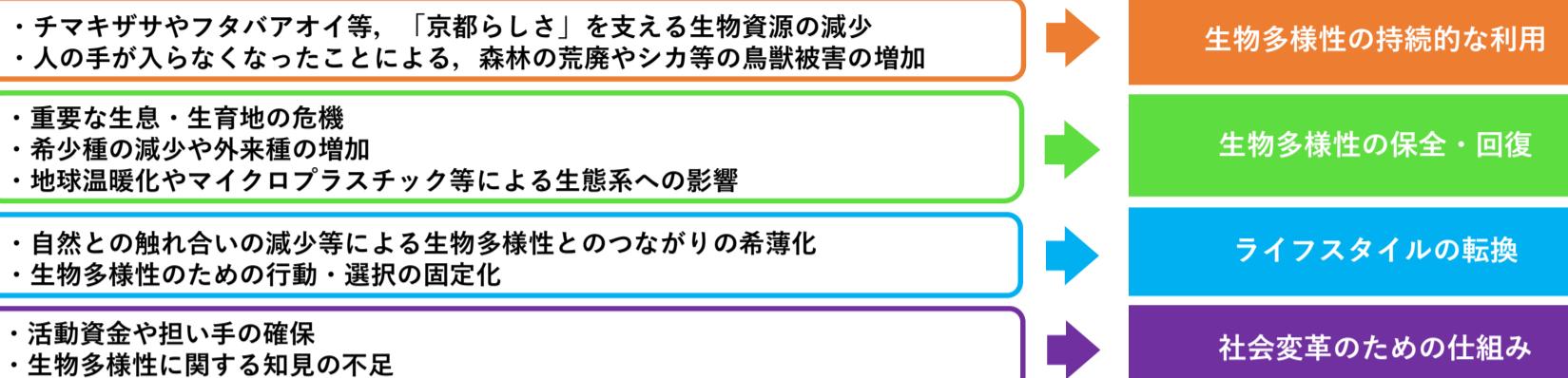
# 次期「京都市生物多様性プラン」骨子（案）

## 京都における生物多様性の重要性

- ・生物多様性は、食料や水の供給、洪水等の自然災害の防止、レクリエーション機能等、様々な恵みをもたらすものであり、私たちの暮らしと密接な関係にあるだけでなく、安らぎを与え、人間の生存の基盤となるものである。
- ・生物多様性を利用することで、「京都らしさ」（伝統、文化、産業、景観等）は成り立っている。

- 生物多様性の損失は、「京都らしさ」や暮らしの安心安全が失われることにつながる。
- 「京都らしさ」を未来に引き継ぐため、**意識的に生物多様性の持続的な利用に取り組む必要**がある。

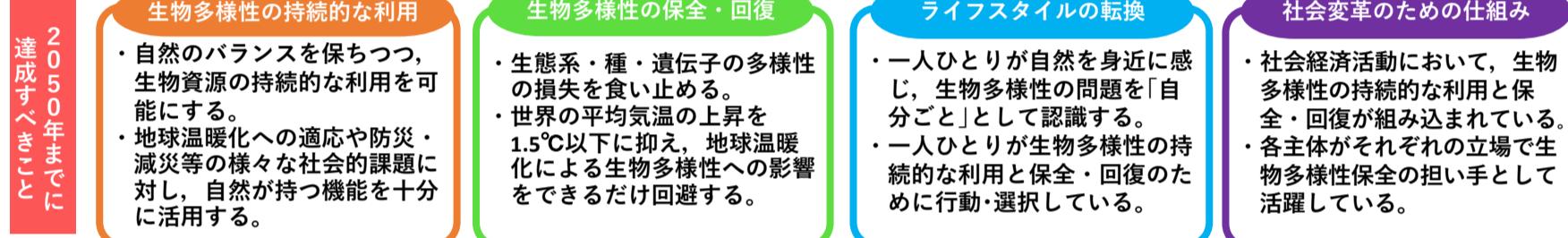
## 京都市における生物多様性の現状と課題



京都宣言に掲げる「2050年の世界の都市のあるべき姿」を生物多様性保全の視点から記載

### 【2050年のあるべき姿】

自然を慈しみ、自然に感謝し、自然と共に、京都の暮らし・文化・産業が継承・発展される「自然共生のまち・京都」

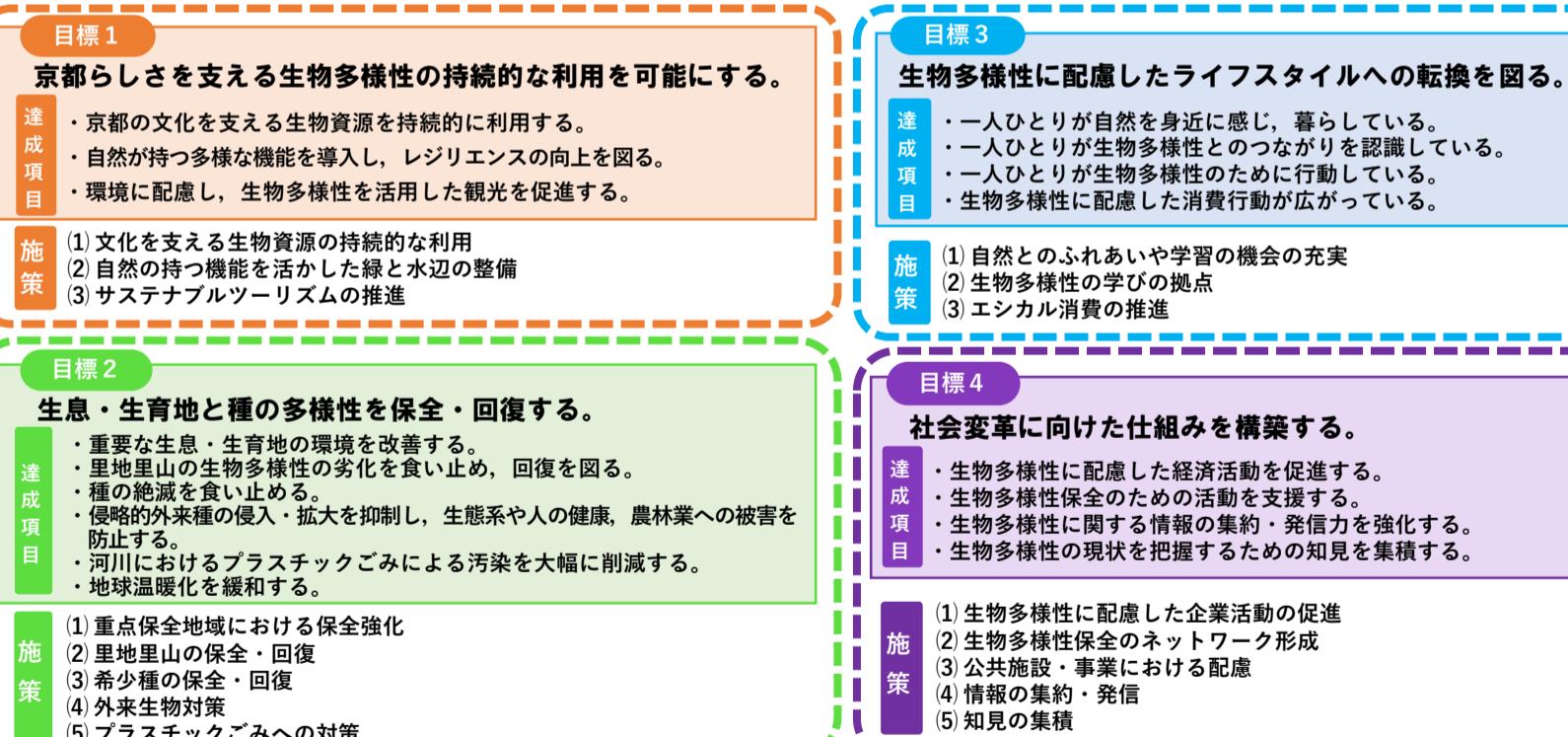


## 基本方針

- ・京都市基本計画に掲げる推進施策「生物多様性豊かな自然環境の保全と利用」の具体的な方策を示す。
- ・各主体がそれぞれの立場で行動できる指針とする。
- ・様々な政策との融合を図り、SDGsの達成やレジリエンスの向上に貢献する。
- ・京都から世界の生物多様性の保全に貢献する。

## 中期目標（次期計画での到達目標）

## 中期目標（次期計画での到達目標）



## 評価方法

生物多様性の状態を端的に表す指標はなく、統計値や事業実績などの個々の増減のみの評価はなじまない。

### 評価方法

複数の客観的・主観的指標※を設定し、指標ごとの評価を行ったうえで、各目標・施策の達成状況を総合的に判断する。

※ 客観的指標：統計値、事業実績、指標種の生息状況等  
主観的指標：アンケート調査による市民の実感度等

## 認識

## 長期目標

## 中期目標（次期計画での到達目標）

## リーディング

## リーディング事業

★一人ひとりが「自分ごと」、「みんなごと」として取り組むきっかけづくりとして、市民にとって活動の意義が分かりやすく、参加しやすい取組を「リーディング事業」として設定し、行動の「見える化」を図るために、各個人や主体が具体的に取り組めるよう「行動の例」を示す。